



# 2025年 露地・雨よけぶどう 病害虫防除暦

JA 中野市営農センター  
JA 中野市ぶどう部会

散布日	散布時期	散布薬剤(水 100ℓ当り)	収穫前 使用時期	使用 回数	散布量 (ℓ/10a)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
/	4月上旬 粗皮はぎ後 (発芽前)	【特別散布】 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ トクチオン水和剤 125 g	発芽前 45 日前	3 回	300	アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 訪花昆虫保護のため早朝散布を徹底する。 ② トクチオン水和剤に代えて、ラビキラー乳剤 200 倍 (発芽前、2 回) を散布してもよい。ただし、発芽後の散布は葉害が発生するので散布時期を厳守する。
/	4月下旬 (発芽直前)	① 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ パスポート顆粒水和剤 400 g	休眠期	1 回	300	晩腐病 黒とう病	① 晩腐病密度抑制のため、発芽前に散布完了する。 ② 晩腐病が多発した園は、ベンレート水和剤 200 倍 (休眠期、1 回) を加用する。
/	5月初旬 カイガラムシ 特別対策	【樹幹塗布】 水 20 mℓ アルバリン顆粒水溶剤 20 g	幼果期まで	塗布 1 回	1 樹当り 20-40 mℓ	コナカイガラムシ類 (クビアカスカシバ)	塗布方法 ① 水：アルバリン=1：1 で調合 ② 目安：直径 10 cm 以上樹 20 mℓ、直径 20 cm 以上樹 40 mℓ ③ 主幹分岐部下 30~50 cm 程度、粗皮削りし塗布する。 コウモリガ対策 ① ガットサイド S の 1.5 倍 (幼虫喰入期直前~喰入初期、2 回) を主幹部の地際から 30 cm の位置まで塗布する。
/	5月上旬 展葉 3 枚頃	【特別散布】 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ トレノックスフロアブル 100 mℓ	60 日前	2 回	300	晩腐病・べと病 黒とう病	
/	5月中旬 展葉 6 枚頃	② 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ ダイアジノン水和剤 34 100 g オーソサイド水和剤 80 125 g	30 日前 30 日前	2 回 3 回	300	べと病・灰色かび病 晩腐病・黒とう病 クワコナカイガラムシ 若齢幼虫	① 今回防除から概ね 10 日間隔の散布を目安とする。
/	5月下旬 展葉 9 枚頃	③ 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ ドーシヤスフロアブル 50 mℓ	60 日前	3 回	300	べと病・晩腐病 黒とう病	① ツマグロアオカスミカメ対策：コルト顆粒水和剤 3,000 倍 (前日、3 回) を加用する。
/	5月下旬 展葉 9 枚頃	展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ ストマイ液剤 20 100 mℓ	満開予定日 14 日前~ 開花始期	1 回	300	無種子化	① 注意！有核巨峰には飛散しないようにする。 ② 満開予定日 14 日前は概ね展葉 9 枚目頃に該当する。遅れのないように早めに散布する。
/	6月初旬 展葉 7~11 枚頃	展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ フラスター液剤 mℓ	新梢展開葉 7~11 枚時 (開花始期まで)	2 回	150	着粒増加 新梢伸長抑制	① 品種により倍率が異なるため、散布前に必ず登録内容 (ラベル等) を確認する。種なし巨峰：1,000 倍 (10a 当り 300ℓ)、ナガノパープル 500~800 倍 ② 弱樹勢や若木等は新梢伸長が弱る可能性があるため、散布を控える。
/	6月上旬 開花直前	④ 展着剤 (ハイテンパワー) 10 mℓ パレード 15 フロアブル 50 mℓ オーソサイド水和剤 80 125 g トクチオン水和剤 125 g	7 日前 30 日前 45 日前	2 回 3 回 3 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病 黒とう病 アザミウマ類 コナカイガラムシ類	① 主幹害虫対策：主幹・主枝等にも薬液が到達するようにする。 ② アザミウマ類対策：花穂 (軸部) に薬液が到達するようにする。
/	前回から 10 日後 (落花直後)	⑤ グレーシアフロアブル 25 mℓ スイッチ顆粒水和剤 33 g ゾーバックエニベル顆粒水和剤 133 g	7 日前 30 日前 45 日前	2 回 2 回 2 回	400	べと病・晩腐病 灰色かび病 チャノキアザミウマ ブドウサビダニ (ミカンキアザミウマ) (コガネムシ類)	① 注意：ジマンダイセン・ゾーバック等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を 2 回までとする。 ② サビ防止対策：花冠の飛びを確認して散布する。 ③ 果紛溶脱防止：展着剤は今回から特別散布 (落花 30 日後) まで使用しない。
/	前回から 10 日後 (落花 10 日)	⑥ フェニックスフロアブル 25 mℓ トランスフォームフロアブル 50 mℓ ジマンダイセン水和剤 100 g	14 日前 3 日前 45 日前	2 回 3 回 2 回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・褐斑病 スカシバ類 カイガラムシ類 (アザミウマ類)	① 注意：ジマンダイセン・ゾーバック等のマンゼブ成分を含む農薬は、年間の使用回数を 2 回までとする。 ② 代替：ジマンダイセン水和剤に代えて、ホライズンドライフロアブル 2,500 倍 (21 日前、3 回) を使用してもよい。
/	前回から 10 日後 (落花 20 日)	⑦ レーバスフロアブル 50 mℓ アミスター-10 フロアブル 100 mℓ ディアナWDG 10 g	7 日前 30 日前 前日	3 回 3 回 2 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 アザミウマ類 クビアカスカシバ	
/	前回から 10 日後 (落花 30 日)	【特別散布】 ライメイフロアブル 25 mℓ オンリーワンフロアブル 50 mℓ アーデントフロアブル 50 mℓ	14 日前 前日 前日	3 回 3 回 4 回	400	べと病・灰色かび病 晩腐病・褐斑病・黒とう病 ハダニ類 アザミウマ類	① 袋かけ直前の散布とする。 ② 晩腐病強化対策：オンリーワンフロアブルに代えて、ミギワ 20 フロアブル 2,000 倍 (前日、3 回) を使用してもよい。
/	7月下旬 (袋かけ直後)	⑧ 展着剤 (アピオン-E) 50 mℓ アルバリン顆粒水溶剤 50 g ムッシュボルドーDF 200 g	前日 -	3 回 -	400	べと病・さび病 チャノキアザミウマ ブドウトラカミキリ カメムシ類 コナカイガラムシ類	① ハダニ類 対策：コロマイト水和剤 2,000 倍 (7 日前、2 回) を加用する。 ② クビアカスカシバ対策：パダン SG 水溶剤 1,500 倍 (21 日前、5 回) を加用する。 ③ ムッシュボルドーDF を使用する場合は、高温時や降雨後の散布で葉害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。
/	8月上旬 (前回から 10 日後)	⑨ 展着剤 (アピオン-E) 50 mℓ IC ボルドー-66D 2.5 kg テルスター水和剤 100 g	- 14 日前	- 1 回	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病 チャノキアザミウマ	① コガネムシ類対策：テルスター水和剤に代えて、イカズチ WDG の 1,500 倍 (21 日前、5 回) を使用する。ただし、早生種は収穫前規制に注意する。
/	8月中旬 (前回から 10 日後)	⑩ 展着剤 (アピオン-E) 50 mℓ IC ボルドー-66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① IC ボルドー代替 ムッシュボルドーDF の 500 倍又はコサイド 3000 の 2,000 倍又は園芸ボルドーの 500 倍を使用してもよい。ただし、変更する場合は、高温時や降雨後の散布で葉害を生じる恐れがあるため、クレフノン 100 倍を加用する。
/	8月下旬 (前回から 10 日後)	⑪ 展着剤 (アピオン-E) 50 mℓ IC ボルドー-66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	① IC ボルドー代替：前項同様 ② 収穫中の園地に飛散しないように注意する。
/	特別散布 収穫終了後	展着剤 (アピオン-E) 50 mℓ IC ボルドー-66D 2.5 kg	-	-	400	べと病・晩腐病 黒とう病・さび病	

◆ 混用例：展着剤 ⇒ 液剤⇒ 乳剤⇒ 顆粒水溶剤⇒ 水溶剤⇒ フロアブル⇒ ドライフロアブル (DF) ⇒ 顆粒水和剤 (WDG) ⇒ 水和剤

◆ 安全・安心の農産物生産のために使用基準を厳守しましょう。

当防除暦の複製・コピーを禁止します。